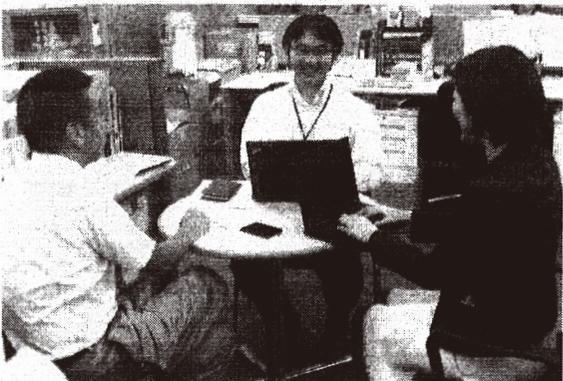


年金 医療 介護 子育て 労働 福祉

安心

広がる
プロボノ

本業生かして社会貢献



プロボノ活動を通じて「視野が広がった」と語る日本IBM社員の竹田さん(中央)(東京・日本橋の同社で)

若手社員の間で新たな社会貢献活動が広がりを見せている。ラテン語で「公益のために」を意味する言葉が語源とされる「プロボノ」という活動だ。米国内で広まっているもので、従来のボランティアと違い、本業で培った高度な知識を活用するのが特徴。人材の育成や募集に活用する企業も出ている。(大津和夫、写真も)

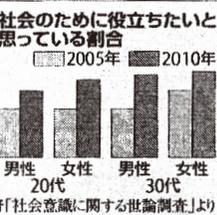
*企業にもメリット

「人脈も広がり、本業にもプラスだった」と振り返るのは、「日本IBM」社員の竹田圭志さん(36)。3月から4か月間、パソコンを活用して地域交流を進め

るNPO法人「TRYWA RP」(千葉市)で、事業計画をつくる作業などを手伝った。同法人の担当者は「中長期的な視点で事業を見直せた」と話す。

竹田さんが参加したのは、日本IBMの「プロボノ・プロジェクト」。社会貢献と人材育成を目的に3月に導入した取り組みで、関心を持った社員を組織化し、支援を求める団体の紹介

若手社員 NPOで手応え



2003年から社員の活動を後押ししている「ボストンコンサルティンググループ」は7月、東京都内で開いた中途採用者向けセミナーで、社員のプロボノへの取り組みを前面に押し出した。初の試みだったが、活動に関心を持つ若手の自慢や大企業の社員らが殺到。「来てほしい層に売り込むことができた」(同社の岡田純美人事採用グループリーダー)という。

一方、会社とは別に、活動をしたが若者と、支援を求めるNPOを結びつける組織も誕生している。09年5月に法人化したNPO法人「サービスグラント」(東京・渋谷)が、登録者は、20代から40代を中心に約550人で、広告会社、メーカーなど職種は様々。5、6人がチームを組み、土日

*活動を結び

などを活用し、約半年間、サイトの制作や、寄付金を募集するための資料づくりを行う。これまでに延べ45団体に支援を実施。「サイトへのアクセス数が倍増した」「寄付が増えた」などの成果を上げている。こうした取り組みが広がる背景には、若者の社会貢献意識の高まりがある。内閣府の「社会意識に関する世論調査」によると、20代、30代で「何か社会の役に立ちたい」と答えた割合を05年と10年とで比較すると、10年前後増えている。若者の意識に詳しい電通総研ローバル・インサイトの部長、山崎聖子主任研究員は「今はバリバリ働いても出世や賞金アップが期待できず、若い世代は不安を抱えながら、直接、支援先から喜ばれるプロボノは、その不安を埋めるのに役立っている」とみる。

◆NPO法人「サービスグラント」(<http://www.servicegrant.or.jp/>)

◆内閣府の社会意識に関する世論調査 (<http://www8.cao.go.jp/survey/index-sha.html>)